



社会福祉法人 さぼうと 21
理事長 吹浦 忠正

震災で罹災された方々への支援は重要ですが
縁あって日本で暮らす外国からの人たちに対する
ご支援も継続してください

緊急募金のお願い

まずもって、東日本大震災で罹災されたみなさまに
衷心よりお見舞い申し上げ、復興の一日も早いこ
とを祈念いたします。

思えば、1995年1月の阪神淡路大震災に際し、社会
福祉法人さぼうと21は、みなさまのご協力により、
神戸在住の難民や留学生への生活支援といった独自
のものから、炊き出し、青いビニールシート、ランド
セル、ジャンボ機2機でソウルから運んだ下着30万セッ
トの配布など13億円にのぼる救援・支援活動を実施
致しました。

他方、今般の大震災という未曾有の国難に際しては、
姉妹団体である認定NPO法人難民を助ける会が主と
して緊急救援・復興支援を、社会福祉法人さぼうと21
は教育に重点を置いて活動を展開してきております。

これまでに小中学校の吹奏楽部復活のための楽器
提供、その楽器を持っての8日間のロシア訪問への
支援(主催は両国外務省)、被災地の方々をお招きして、
仙台でのコンサート、トートバッグの募集、理科や体
育の備品、薬品、機材の提供、地区災害対策本部への
車両の提供などを実施し、おかげさまで関係方面か
ら高い評価をいただいております。これもひと
えに皆様、個人個人からの浄財と、それにイメージニ
クス(本庄洋造社長)、セガサミーホールディングス
(里見治社長)の両社を始めとする有力企業各社から
のご寄付があってこそのごことです。

しかし、その一方で、私たちは法人本来の業務を
疎かにしてはならないのです。

それは、縁あって合法的に来日した外国出身者(難民、
定住難民、残留孤児とその家族、脱北者、留学生など)
への支援であります。ただ、この活動へのご寄付は、
例年に比べて7分の1程度にとどまっているのが現
状であり、このままではそう遠くない時期に、これら
外国からの人々への支援事業を大幅に削減すること
を検討しなくてはならない状況にあります。

いうまでもなく、さぼうと21は「日本人の善意を
世界の人々へ」ということから始まったものであり、
緊急事態に対応するのは当然のことであるとしても、
その活動だけに留まることなく、日本社会そして世
界のためにと頑張ってきた優秀な若者たちへの物心
両面での励ましを継続してこそ、その存在意義が認
められるべきものと存じます。

心あるみなさまにおかれましては、同じ日本で暮
らしている苦学生たちを何とか支えてあげていただ
きたいのです。

さぼうと21では、支援している定住外国人学生によ
る報告会をはじめ、日本語や教科の補完教育など毎週
の学習会などの様子をみなさまにご覧いただきたい
ものと、各種の行事を別掲のように企画しております。

ご多忙かとは思いますが、ぜひ、ご参観くださり、
この事業の意義に共感していただければ幸いです。

緊急募金にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さぼうと21へのご寄付は優遇措置の対象になります。

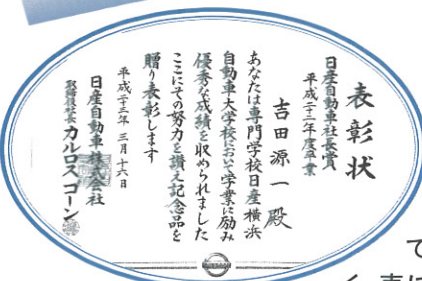
会費・寄付の
お振込み先

ゆうちょ銀行 00180-7-25470
三井住友銀行 目黒支店(普)851872

加入者名：社会福祉法人さぼうと21

名 義：社会福祉法人さぼうとにじゅういち

(詳細は、本号最終ページにあります) ※銀行口座にお振込後は必ず事務局までご一報下さい。



私が自動車の専門学校に入学を決めた一番の理由は「手に職をつけて仕事したい」と思ったからです。また単純に「車が好き」でした。しかし、今まで1回も工具を持った事がなく、車に関しても全然詳しくなかった

吉田源一君は1984年、叔母の呼び寄せで母子3人で来日。さぼうと21の支援を受けながら高校を卒業し、福祉の道を志し、そのための専門学校に進んだが、国籍その他で就活が上手くゆかず、悩みぬいた末にその道を断念。自動車整備士という全く違う道に方向転換し、見事に目標を達成した元支援生です。



卒業試験は、学年で唯一私だけが学科実技共に満点を取り、学年トップとなって、日産自動車社長賞を受賞しました。

今、新米の整備士として、日々覚える事が多くて、とても大変ですが、毎日すごく充実しています。これからの目標は、社内の資格試験に一発で合格し、腕の良い整備士になることです。

今、皆さんに、「諦めない気持と努力する気持があれば、必ず成果が表れる」と伝えたいです。不安でもチャレンジすること、やり遂げることが大事だと思います。こんな今の私があるのも、ずっと応援をしてくださった皆様のお陰です。

本当にありがとうございました。様々な困難に直面しても、諦めずに頑張っていきたいと思います。

ユニクロでのインターンシップ



初体験！

池袋東口店、インターンシップ参加者と(一番右がラムさん)

さぼうと21の学習支援室通学生だったリア チン ラム マンさん(関西学院大学2年生)、さぼうと21の現生活支援生、ファム ティ ハさん(横浜市立大学2年生)が、8月28日から9月8日の10日間、ユニクロでのインターンシップ・プログラムに参加してきました。お二人は実際に店頭で接客にあたり、現場の空気をたくさんに吸い込み、多くを吸収してきたようです。今回のインターンシップへの参加は、(株)ファーストリテイリングが、大学在学中の難民4名に対し、特別にその機会を提供してくださり、実現したものです。

「当初、多少の心配もあったが、結果的には彼らの芯の強さやバイタリティに日本人学生や店長たちもとても良い刺激を受けた」と、企業側から温かなご感想をいただきました。

池袋東口店で業務全般を体験したラムさんは「最初は不安

も大きかった。とくに店舗に出て、初めてフロア全体に向けてマイクでご案内の放送をする時にはとても緊張した。けれど、社員の皆さんの、どんなお客様にも同じように笑顔で接する姿勢や、お客様によって態度を変えない平等の精神を学びました。どんなに仕事が集中していても、決して笑顔を忘れないんですよ。驚きでした。」と笑顔でご報告下さいました。

難民の皆さんが日本社会から学び、同時に日本社会の力となる。近い将来、いつも出かけるユニクロで、自然な笑顔で接客する難民の方々を、当り前のように見かける、そんな日が来たらいいですね。(談:矢崎)

2012年度「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」募集要項

応募資格

日本在住の外国籍・元外国籍の学生で、下記の①～③のいずれかに該当する者

①インドシナ難民・条約難民およびその子弟 ②中国帰国者子弟および日系定住者とその子弟

③上記①②と同等の事情があるとみなされる、外国籍・元外国籍の学生 ※留学生ビザの学生は支援の対象となりません

募集開始

2011年11月15日(火)～12月15日(木)必着

※提出書類は一切返却いたしませんのでご了承ください
提出いただいた書類は選考以外の用途には使用しません

尚、詳細が記された募集要項や申請書はさぼうと21のホームページ【<http://www.support21.or.jp>】よりダウンロードいただくか、直接さぼうと21事務局【TEL:03-5449-1331】までお電話にてお問い合わせください。



3月11日の東日本大震災を機に、難民、中国帰国者や日系人の子弟の学生たちから、日本社会の一員として、自分たちも何かしたい、という声が聞こえるようになりました。そこで本年の夏期研修会は『被災地支援の現場から 私たちの理解⇔実践を考える夏』というテーマで、8月13日から15日にかけて、国立オリンピック記念青少年センターにて行いました。

1日目

「今回の震災はどの位の規模だったのか」「緊急支援とは具体的に何をするのか」など、震災直後より被災地入りし、現在も支援活動を続ける認定NPO法人難民を助ける会から、大西清人事務局次長にお話をいただきました。また金属加工会社で働く傍ら、母国カンボジアの孤児院でボランティア活動を行う水原由人さん(元支援生)からは、これまで自分が受けた支援に対する感謝の思いを行動にし、祖国や日本社会に還元していくことの大切さを、後輩の学生たちに伝えていただきました。



認定NPO法人難民を助ける会の活動を紹介します大西事務局次長



被災地での瓦礫撤去作業のボランティアを行った学生



参加者と談笑する水原由人さん



夜は恒例のボランティアさん主催のレクリエーション



様々な年代・国籍の「さぼうと21大家族」葛西臨海水族館にて

2日目

まず防災館へ向かい、煙体験や地震車で震度6の揺れを体感する中で、自分たちの日頃の防災対策に対する意識について、改めて学びました。

午後からは、土曜日にさぼうと21で日本語やパソコンを学んでいる難民の学習者、ボランティア講師の方々も合流し、約100名で葛西臨海水族館に行きました。

日頃交流のない外国出身の学生と、その親世代の難民の学習者の方々が共に行動する中で、同じ立場で日本にいながらも、様々な背景をもった方がいるのだということを学びました。

猛暑の中、病人が出ることも無く楽しい一時を過ごしました。

3日目

朝から面談を行い、その間、班ごとに分かれ2日間の振り返り会を行いました。打ち解け合った仲間達にそれぞれの思いを熱く語っている姿が印象的でした。

その後、昼食をとり別れを惜しみつつ帰宅の途に着きました。

震災の被害、被災者の様子を、祖国での経験や、自身の立場に重ねる学生が多くおり、自ら瓦礫撤去等のボランティアに参加した者も少なくありません。

「困ったときはお互い様」という創設者・相馬雪香の精神にも通じる支援者の皆様からのあたたかなお気持ちや、学生にも確実に受け継がれているのだと実感した、本年の夏期研修会でありました。

社会福祉法人 さぼうと21



支援生とのつどい

～外国にルーツをもつ私たち～
日本で生きるという選択

日時:12月23日(金・祝日)

午後1時～午後4時(予定)

場所:JICA地球ひろば

〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-2-24

〔交通案内〕

東京メトロ日比谷線

広尾駅下車(3番出口)徒歩1分



東日本大震災を機に、帰る祖国のある外国出身者が次々と日本を去りました。

しかしさぼうと21に関係する難民や、中国帰国者、日系人子弟の多くは、その家族含め、縁あったここ日本以外に、帰る場所をもちません。

そうした状況にありながらも、将来は日本の社会を支える「人財」となるべく、日々勉強や研究に励んでおります。

学業の成果披露に加えて、難民等の外国出身の学生として、どのような困難があったか、自らの思いを語る「支援生とのつどい」も、本年度で第6回目を迎えます。

活動にご賛同いただいている皆様と学生とが、交流を深めることの出来る数少ない機会ですので、ぜひお出かけ下さい。



さぼうと21 支援生とのつどい 2010年度

お問合せ

社会福祉法人 さぼうと21

TEL : 03-5449-1331 / FAX : 03-5449-1332

E-mail : info@support21.or.jp



エリック・オーピエさんと

仙台市や石巻市などに居住または避難されている罹災者の方々をご招待して、去る8月5日、修復が終わったばかりの仙台市青年文化センターにて、入場無料のコンサートを開催いたしました(共催: 難民を助ける会)。世界最高峰のトランペット奏者の一人エリック・オーピエ氏と、震災後音楽の力を通じて人々の絆を深める活動をしてきた仙台フィルハーモニー管弦楽団による、復興への祈りを込めたクラシック・コンサートとなりました。また、当会が楽器を寄贈した石巻好文館高校の吹奏楽部の皆さんも、水色のユニフォームで出演し、「希望の帆」など2曲を演奏してくださいました。

交通手段がない被災者の方々のために送迎バスをご用意し、また託児の施設を用意しました。約800席のホールは晴れやかな表情を浮かべた多くのご来場者で埋め尽くされました。会場では、「ロミーズ・パッチワークスクール」(川嶋ひろみ先生主宰)の皆様が作られたカラフルなきんちゃくの配布を行い、想いの詰まったきんちゃくを手にとられた方々から、大変好評を頂きました。



仙台フィルハーモニー管弦楽団

学習支援
だより

よい多くの定住外国出身者に 日本語習得のチャンスも！

この秋、新たに2つの日本語コースが、スタート！

1つは、「日本で働くための中上級日本語コース」。

東京都の助成を受け、日本で仕事を探し、日本人と共に快適に働いていくために必要となる日本語の習得を目指します。

もう1つは文化庁委託事業の「60時間初級日本語コース」。

「使える生活日本語」の習得を目標にした初級日本語クラスです。

どちらのクラスも熱気にあふれています。

加藤タキ ~第5回~ チャリティ・サロンコンサート

2011年12月17日 (土)

開演: 午後2時 (開場: 午後1:30)

場所: JTアートホール アフィニス

東京港区虎ノ門2-2-1JTビル2F

料金: 全席自由3,500円



加藤タキ

永井公美子
(バイオリン)上村文乃
(チェロ)外山啓介
(ピアノ)

曲目
J.S.バッハ
無伴奏チェロ組曲 第1番
バガニーニ
24の奇想曲より第13番
第24番
メンデルスゾーン
ピアノトリオ 第1番 ほか

それぞれが、大活躍中のアーティストです。
よろしくお願いします。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.46 2011.11

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は・・・

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO 法人難民を助ける会 (AAR JAPAN) を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。「困っている人がいたらお互いさま」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を
求めています！

■会員 : 法人会費 50,000円
: 個人会費 5,000円

■ご寄付: 随時受付中

(会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます)

■会費・寄付のご送金口座

□ ゆうちょ銀行 (旧郵便局): 00180-7-25470

加入者名: 社会福祉法人さぼうと21

※通信欄に会費または寄付とご明記ください

□ 三井住友銀行: 三井住友銀行 目黒支店

(普)851872

名義: 社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

※三井住友銀行振込後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

編集・発行

社会福祉法人 さぼうと21

TEL / FAX

TEL: 03-5449-1331

FAX: 03-5449-1332

住所

〒141-0021

東京都品川区上大崎

2-12-2 ミズホビル3階

E-mail

info@support21.or.jp

URL

http://www.support21.or.jp

